

ムスリム・マイノリティの児童文学と 子どもたちを「可視化する」物語

ファウズィア・G・ウィリアムズの「イードの物語」を中心に

前田君江

I. はじめに——クルアーンを読むシンデレラ

本稿では、欧米を中心とするムスリム・マイノリティの子どもたちのための文学である「ムスリム児童文学」(後述)の分野で、主として絵本の文作者として活動するファウズィア・ギラニ・ウィリアムズ Fawzia Gilani Williams(1960年代生まれ)の作品について考察を行う¹。まず、ファウズィアの最もよく知られる作品である、『シンデレラ：イスラーム民話』 *Cinderella: An Islamic Tale* (2010)に触れたい²。

この絵本は、イギリスの The Islamic Foundation³のインプリント⁴である Kube Publisher から 2010年に刊行された。ストーリーは、私たちが知っている、いわゆる「シンデレラ」だが、大きく違うのは、シンデレラが敬虔なムスリムであるという点であり、それに沿って、物語の細部も少しずつ改変されている。シンデレラは常にヒジャーブ姿で、最初のページでは、実の父母と一緒にクルアーンを読誦する絵が描かれており、クルアーン章句の英訳もしばしば引用される。また、魔法使いがカボチャを馬車に変える場面はなく、代わりにメッカ巡礼の帰途に近隣国の内戦に巻き込まれ永らく足止めされていた、お金持ちの実のおばあさんが突然帰宅し、本物の馬車とドレスをプレゼントしてくれる。さらに、お城のパーティーでは、王子様と花嫁候補たちやシンデレラはダンスをしないなど、イスラームで一般的に認められないことはストーリーのうえで回避されている⁵。

¹ Williams は改宗ムスリムである夫の姓であるという。作品によって、作者名を Fawzia Gilani Williams と示しているものと Fawzia Gilani と示しているものがあるため(本稿末の作品リストを参照)、本稿では、「ファウズィア」とファーストネームで記す。

² An Islamic Tale の副題をもつ、このほかのファウズィア作品として、*Snow White: An Islamic Tale* (2012), *Sleeping Beauty: An Islamic Tale* (2018 刊行予定)がある。

³ サイド・アブルアラー・マウドゥーディー(1903-1979)が1941年にパキスタンで創始した、ジャマーアテ・イスラミーヤの小分派として設立された。なお、本稿脚注17も参照のこと。

⁴ 出版社が出版物を刊行する際のブランド名を指す。

⁵ このほか、同書のイラストレーションで、シンデレラが褐色の肌をしていることや、シンデレラの外見の美しさではなく、内面の美しさが語られることについてもさらに考察を要する。

一見、珍妙にも見える、『シンデレラ——イスラーム民話』だが、この絵本は、彼女の人気作品のひとつであり、2015年に第3刷までが刊行されている。また、たとえば、日本のムスリム向けの絵本とおもちゃの代表的なネット販売サイト⁶でも、定番絵本として扱われている一方で、ムスリム児童文学を研究する研究者からは、「イデオロギー的である」と指摘されることもある⁷。これについて、作者自身は、同作品は、「宗教的・文化的なハイブリッド性 (hybridity) を実際に示した文学を創り出すために、イスラームの信仰を、伝統的に西洋の物語であるものに組み合わせたのだ」⁸と述べている。「ハイブリッド(な)」(hybrid)は、ムスリムとしての信仰・文化、および、とくに欧米を中心とする受け入れ国のマジョリティ文化の双方に深く関わりをもちながら生きるムスリム・マイノリティ、および、その新世代のアイデンティティに対して用いられるモデル概念のひとつである⁹。

1970年代以降にヨーロッパや北米に多く移住したムスリム移民の第2世代・第3世代は、親世代にとっての受け入れ国である非ムスリム地域の国々を Homeland として生まれ育ってきた。これら新世代を創り手とし読み手とする児童文学の登場と発展は、彼らが暮らす土地が、如何に彼らにとっての Homeland となりうるかという希求のプロセスそのものでもある。

本稿では、まず、「ムスリム児童文学」の登場と広がりについて論じたあと、ファウズィアの論考から、ムスリム児童文学作家が、イスラームの文化やムスリム児童が登場する作品の創作にいかなる意義を見出しているかを考察する。そのうえで、ファウズィアがムスリム文化とムスリムの存在の表象とみなす「イード」をテーマにした物語(Eid Stories)を分析することとする。

II. 「ムスリム児童文学」の広がり

⁶ 販売サイト「アン・ヌール」がよく知られる (<http://an-noor.ocnk.net/>、2018年6月1日閲覧)。

⁷ [Janson 2017:135]

⁸ [Gilani-Williams 2016: 115]

⁹ なお、たとえば、『イスラームの人類学』[Marranci 2008]は、個々人が「感じていること」を基点としてより多義的にアイデンティティを理解すべきだとする立場から、「ハイブリッドなアイデンティティ」モデルにはむしろ否定的である。また、本稿で述べる「ムスリム（・マイノリティ）児童」や「ムスリム（・マイノリティ）の子どもたち」も、ひとつの仮想モデルであり、彼らやその保護者が置かれている宗教的・文化的状況は、極めて多様であることを前提として付記しておきたい。

本稿で述べる「ムスリム児童文学」は、英語で Muslim Children's Literature、もしくは Islamic Children's Literature¹⁰と呼ばれるものの訳語である。同文学は、ヨーロッパや北米を中心とした国々でマイノリティとして暮らすムスリムの児童向けの文学・絵本・イスラームの知識を学ぶ図書などを指す。より具体的には、クルアーン物語やハディースに親しむための本や、ラマダンやイードを楽しむ図書、宗教道徳を学ぶための作品や、ムスリムを主人公とした創作物語などが挙げられる。また、いわゆる YA 文学や物語本から絵本まで、幅広いジャンル形態を指して用いられる。

日本では同文学についての先行研究は数少ないが、イギリス児童文学研究やフランス児童文学研究の枠組みで提起されたものがあり、いずれも Muslim Children's Literature や Littérature pour enfants musulmans を「イスラーム系児童文学」と訳している¹¹。これは、日本では、中東研究など、ごく一部の分野を除けば「ムスリム」という言葉が永らく普及していなかったことによるものと思われる。本稿では、Muslim Children's Literature、および、Islamic Children's Literature のいずれに対しても、「ムスリム児童文学」の訳語を用いることとする。

T. Janson は、「イギリスとアメリカの出版がこの分野をリードし続けてきた。しかし、様々な言語で書かれた本を含め、今日、ムスリム児童文学(Islamic Children's Literature) は、グローバルな現象である」と指摘する¹²。

地理的な広がりについて言えば、移民や難民の流入に伴い、ドイツ、スウェーデン、フランスでもそれぞれの言語によるムスリム児童文学が制作されている。また、英語圏では、ムスリム児童文学が最初に登場したとされるイギリスのほか、現在では、アメリカのみならず、カナダでも多くの図書が刊行されている。さらに、12~13 億人に及ぶ「歴史的マイノリティ」・ムスリム¹³が暮らすインドで制作されたクルアーン物語の絵本が、

¹⁰ Muslim Children's Literature は直訳すると「ムスリム児童の文学」、Islamic Children's Literature は「イスラーム的な児童文学」であるが、双方の間に必ずしも明確な区別があるわけではない。むしろ、いずれの用語もその概念は自明ではなく、より広範な文学形態を含めようとすることも多い。本稿では双方のいずれに対しても「ムスリム児童文学」の訳語を用いる。なお、たとえば、[Gilani-Williams 2016]では、Western Islamic Children's Literature 「西洋的イスラーム児童文学」の語と概念がとくに提起される。これについては稿を改めて論じることとする。

¹¹ [伊藤 2016]、および、[Oyabu 2010]の和文要旨。

¹² [Janson 2017:135]

¹³ ムスリム・マイノリティは、移住による「移民マイノリティ」と植民地化や国民国家形成のプロセスにおいてマイノリティとなった「歴史的マイノリティ」に便宜的に分けることができる [川島 2008: 388]。

インターネットの図書購入サイトなどで大きな存在感を示し、ヨーロッパや北米のムスリム・コミュニティや日本に住むムスリムにも受容されているなど、必ずしも欧米からの発信ではない、新しい動きが見られることも興味深い¹⁴。これに加えて、オーストラリアでは、やはり、移民や難民の増加に伴い、「オーストラリア初のムスリム出版社」を自認する Aligator 社が 2002 年にメルボルンで設立された¹⁵。同社で刊行する絵本は、The Islamic Foundation の販売ネットワークをそのまま使う形で、広く流通している。

現在のムスリム児童文学には、地理的な広がりだけでなく、さらに、概念的な広がりも見られる。ムスリム児童文学は、1970 年代のイギリスの南アジア系移民を中心としたムスリム・コミュニティで登場した。異文化に晒されるムスリム児童に対する親たちの危惧を背景に、イギリスの一般的な児童書の「オルタナティブ（代替）」¹⁶として制作されたと指摘される¹⁷。初期には、宗教譚や「理想化されたムスリム児童」の提示が顕著に見られ、また、その後は、British Muslim のよりリアルな姿や等身大の悩みが描かれるようになったが¹⁸、いずれにせよ、同文学のはじまりにおいては、「ムスリム児童向けの」文学として制作されてきたと言える。

これに対し、たとえば、カナダを中心とするムスリム作家や教師らによる近年の発信には、別の観点からの「ムスリム児童文学」の定義付けと意義付けが見られる。たとえば、インド系移民でカナダで教師経験をもつ A. Panjwani は、カナダ・オンタリオ市教育省による公立小学校の授業実践等のための推奨図書リスト Trillium List¹⁹に、自ら、「ムスリム児童文学」の英語図書リスト 292 冊を提案することを試みている²⁰。彼女は、従来の推奨図書リストに、ムスリムの主人公や表象をもつ図書がほとんどないことは、教育省が提示するガイドラインである「多様なバックグラウンド……をもつ生徒たちに適したものでなければならない」という規定からみて、「極めて不適當に見える」と指摘

¹⁴ [前田 2018]を参照。

¹⁵ <http://www.ali-gator.com/>、2018 年 6 月 1 日閲覧。

¹⁶ たとえば「オルタナティブ教育（代替教育）」は、「教育選択肢」や「非伝統的な教育」を指すが、ムスリム児童の教育や文化、遊びなどにおいても、彼らが暮らす社会の主流のものに代替する選択肢に対し、「オルタナティブ」の語が多く用いられる。

¹⁷ [Oyabu 2010:121, 138] 初期のムスリム児童文学作品の大半は、The Islamic Foundation により刊行された。

¹⁸ [Janson 2017:129]

¹⁹ 英語・フランス語のテキストを含み、現在ではオンラインでデータベース化されている (<http://www.trilliumlist.ca/>、2018 年 6 月 1 日閲覧)。

²⁰ [Panjwani 2017]

した²¹。Panjwani が選んだ図書リストは、諸預言者伝承・コーラン伝承の物語や絵本、イスラームの歴史、中東・イスラーム地域のフォークロアのほか、創作物語や創作絵本などのフィクションも多く含むものである。Panjwani は、「ムスリム児童文学」を、「その中核に、ムスリム文化と文明、信仰と実践の表現」を含む児童文学であると定義し²²、イスラームの信仰や歴史のみならず、ムスリムと「ムスリム文化」の表象が見られるもの全般から選んだ図書リストを作成した。そして、その目的を、「ムスリム生徒らの背景への理解や共感をつくり出し、誤解を軽減」することであり、「ムスリム生徒の親たち」の自信を促すことであるとしている²³。すなわち、ムスリム児童文学を、非ムスリム児童を含めた読者にとっての、ムスリムとその文化や社会的背景理解のための媒体であると捉えているのである。

本稿で論じるファウズィア・ギラニ・ウィリアムズもまた、マイノリティとしてのムスリム児童の存在と児童図書に対する問題意識を創作の契機のひとつとしている。以下ではまず、ファウズィアの略歴を紹介し、ムスリム児童文学に関する彼女の見解を考察する。

III. ムスリムの子どもたちを「可視化」する物語

ファウズィア・ギラニ・ウィリアムズは、1960年代にイギリスで、インド系ムスリムの両親のもとに生まれた。彼女は自分自身のルーツについて、「パンジャブの遺産を受け継ぐ者 (I'm of Punjabi heritage)」と位置づける²⁴。ウォルヴァーハンプトン大学、バーミンガム大学で学び、ウスター大学で学位を取得したのち²⁵、イギリス、アメリカ、カナダで学校教員やムスリム女子校校長、図書館員を務めた。現在は、UAE のアブダビ首長国で公立小学校の英語教員を7年近く務めているほか、同首長国の中央審議会ではアドバイザーを務めたこともある。

ファウズィア自身によれば、幼少期には、家庭での信仰実践はなく、「自分が14歳の

²¹ [Panjwani 2017:110]

²² [Panjwani 2017:21]

²³ [Panjwani 2017:iii]

²⁴ [Gilani-Williams 2011]

²⁵ 博士論文は、「ムスリム児童とフィクション、および、人格教育：1990年以降のイギリス、アメリカ、カナダにおける児童イスラーム文学」"Muslim Children, Fiction and Character Education: Children's Islamic Literature in Britain, USA and Canada since 1990", Ph.D. Dissertation, University of Worcester, 2015.

とき、父は故郷への思慕からかどうかわからないが、ムスリムとしての信仰を始めた」²⁶と語る。

彼女は、多くの作品を刊行しているが、大多数を絵本の文作者として執筆している（本稿稿末の作品一覧を参照）²⁷。その中でファウズィア自身が“Eid Stories”（イードの物語）と呼ぶ、一連の作品がある。いずれもイスラームの2つのイード（アラビア語で「祝祭」の意味）のうち、イードゥル・フィットル（断食月明けを祝う祭り）にまつわる物語である²⁸。本稿では、次章で挙げる12作品を分析の対象とした²⁹。

ファウズィアは、「イードの物語」を書く契機となった出来事のひとつを「今の言葉をもう一度言っただけですか？(Say the word again?)」と題するタイトルのウェブ・エッセイで語っている³⁰。アメリカの児童図書館員らの前で、講演する機会があった際に「イード」という言葉を口にすると、「今の言葉をもう一度言っただけですか？」と尋ねられたというのだ。子どもたちに様々な文化を伝える役割を期待される児童図書館員らが、イスラームの最も重要な祝祭についての情報も知識もないことにファウズィアは大きな衝撃を受ける。このことは、アメリカ社会における他のマイノリティとの比較からも認識される。たとえば、ある年、クリスマスとイードがほぼ重なった年があり、クリスマス・ツリーはもちろんのこと、同じ時期に祝われるユダヤ教のハヌカーや、アフリカ系アメリカンのクワンザ(kwanza)の飾りが、図書館や空港で見られたにも拘らず、イードに関しては何の表象も見られなかったという³¹。

また、彼女は、アメリカの公共図書館だけでなく、英語圏の各国の公共図書館に問い

²⁶ 発表者は、2018年3月10日にアラブ首長国連邦のアブダビに住むファウズィア・ギラニ・ウィリアムズを訪れ、彼女の作品と創作活動についてインタビューを行った。なお、同訪問は、本科研費「現代中東の「ワタン（祖国）」的心性をめぐる表象文化の発展的研究」（2015 - 2018年度、研究代表者：岡真理）による海外派遣への助成と岡教授の激励によって実現した。心より御礼を申し上げる。

²⁷ なお、アラブ首長国連邦で刊行された、英語を母語としない子ども向けのイード絵本も多数あるが、これらは本稿の考察では対象外とした。

²⁸ ファウズィアによるイードの物語は、WISEのEid Stories Projectとして位置づけられていた時期もある。WISE(Women's Islamic Initiative in Spirituality and Equality)は、2006年に設立された、アメリカを拠点とするNGO組織。ムスリム女性の権利や意識の向上、そして、「イスラームの信仰と女性の権利とが相反するものではないことを示し、イスラーム・フォビアを乗り越えること」を掲げていた。(http://www.wisemuslimwomen.org/、2016年3月30日閲覧)。

²⁹ なお、*An Eid Story: The Lost Ring* (2007) は、類似の物語のイスラーム版と思われ、『シンデレラ——イスラーム民話』などととも、別途考察する。また、*Eid Songs(Goodword)* (2014) など詩の絵本も本稿では考察の対象外とした。

³⁰ [Gilani-Williams 2007: online page]

³¹ [Gilani-Williams 2011: online page]

合わせ、イードに関する図書、あるいは、イードに触れた図書があるかどうかを調べている。すると、他のマイノリティの祝祭を描いた図書は刊行・所蔵されているにも拘らず、イスラームにおける二つのイードを説明した児童図書がほとんどなく、イードが登場する物語（フィクション）に至っては、ほぼ皆無であったと報告している³²。

さらに、彼女は、校長を務めていたカナダのムスリム女子校で「物語創作（Story Writing）」の教育実践を行った際の様子も報告している。教師も生徒もムスリムという学校環境にありながら、生徒たちが書いた物語に登場するのは、社会のマジョリティである白人キリスト教徒を中心とする英語名の人物ばかりであり、カナダのもうひとつの公用語であるフランス語名の登場人物すら見られなかったという。ファウズィアは、次のように述べる。

登場人物は誰一人として、ムスリムの名ではなく、ユダヤ名でも、フランス系の名でも、中国系の名でもアフリカ系の名でもなかった。（……）自分自身の書いたものの中に、この子どもたちは、[姿が]見えなかったのだ(not visible)（……）これは奇妙だった。なぜなら、カナダは、カリキュラムにおいても、社会と政府においても、多文化主義を奨励し、提唱し、広める国であるのだから³³。

ファウズィアは、さらに、この教育実践について、生徒たちは、自分たちは物語の主人公にはなれないと考えており、このことは、彼女たちの読み書きの能力の低さと無関係ではないと考察する。

本は、子どもたちを可視化³⁴する必要がある(Books need to give children visibility)。

³² [Gilani-Williams 2007: online page, 2016:119]

また、たとえば、ムスリム児童文学作家の Aina も「私も、ムスリムであるアメリカの子どもたちのために本を書きたいと思いました。私がオハイオで育ったとき、その頃の生活を通して、ただの一度も、ムスリムの主人公が出てくる本を読んだことがなかったからです」と語っている。[Panjwani 2017:122]

³³ [Gilani-Williams 2010/2011:3-4]

³⁴ 『社会と学校における不可視の子どもたち』[Sue Books 2010]の序文において、編者(Sue Books)は、「可視性」(visibility)と「不可視性」(invisibility)を「多くの子どもたちと若者たちの社会生活や学校生活を探る」ための「メタファー」であるとしている。そして、「不可視の子どもたち/見えない子どもたち」(invisible children)とは、「彼らの生の困難な状況を軽減することが社会的に優先されず、軽蔑的なステレオタイプで見られ、学校は通常不十分な形でしか彼らの要請には応えず、さらに/もしくは〔筆者注〕原文のまま、教育分野の研究者や一般的な出版物の書き手から、ほとんどと言っていいほど留意されない」ような子どもたちと若者たちを指すと述べる[Suebooks 2010:vx-vxi]。より具体的には、「不可視性」は従来、人種差別の中で、「黒人であるこ

彼ら[ムスリムの子どもたち]が目に見えなかったら(if they are not visible)、彼らは自分を劣っており、申し訳ない存在であると感じるだろう³⁵。

(受入国の社会と文化からの疎外感を抱えるムスリムの子どもたちもまた、)他のいかなる子どもたちと同様に、肯定的なアイデンティティを持つべきなのだ³⁶。

ファウズィアは、マイノリティであるムスリムとムスリム文化を表現すること、また、これらを児童文学として表現した作品がある/ないということ、マイノリティとして生きるムスリム児童らの、自己肯定感に関わる問題として位置づけている。ファウズィアにとって、ムスリムが登場する物語を書くことは、ムスリム児童にイスラームの宗教教義や道徳を教えるためではなく、また、彼らが西洋の物語に触れることを危惧するからでもない。社会のマイノリティとして生きる児童が、自分と同じ存在を物語のなかに見出すことを物語の大きな意義のひとつとして位置づけているのである。

以下では、ファウズィアが、ムスリム文化の表象と位置づけるイードを、如何に作品中で描いているのか具体的に考察する。

IV. イードの「おくりもの」をめぐる物語

ファウズィアによる「イードの物語」は、大きく二つに分類することができる。ひとつは、現代の日常生活を舞台とした物語、もうひとつは、「創作物語」であり、その多くは昔話的な物語である。

1. 現代の日常生活を舞台とした物語

現代の日常生活を舞台とした物語として三つの作品(『アミナとアイシャのイードのおくりもの』 *Aminah and Aisha's Eid Gifts* (2004年)、『ファティマおばさんと祝う、断食明けのイード』 *Celebrating Eid-ul-Fitr with Amma Fatima* (2004年)、『フスナとイード・

との経験」に対して用いられてきたが[Suebooks 2010: vxi]、同書の各章では、移民、性的マイノリティや貧困、ホームレス状態、エイズ感染に晒された子どもたちや、妊娠した白人ティーンエイジャーのほか、9.11以降のアメリカのムスリム、とくに、イスラーム学校に通う子どもたちが置かれた状況について論じられる。

³⁵ [Gilani-Williams 2011: online page]

³⁶ [Gilani-Williams 2007: online page]

パーティー』 *Husna and the Eid Party*(2007)) が挙げられるが、ここでは、とくに、『アミナとアイシャのイードのおくりもの』について考察する。

同作品をはじめとする、「現代の日常生活を舞台とした物語」に関しては、以下の三つの特徴が挙げられる。第一に日常生活の微細な描写が多いことである。『アミナとアイシャのイードのおくりもの』のメイン・ストーリーは、ムスリム女子校に通う、小学生の二人の姉妹アミナとアイシャが、友人たち（ひとりはお母さんが病気で、ひとりはお父さんが失業中）にイードのプレゼントを詰めた箱（イード・ボックス）を贈るというものである。しかし、物語では、この主要な物語展開に直接関わらない、家庭や学校生活での日常生活での動作や出来事が事細かに描かれている。一部を例として挙げると、自宅でイードの買い物リストを作る姉妹の様子や、父がイフタール（一日の断食が日没とともに終了したあとの食事）を作り、出来上がったところに仕事から母が帰宅する様子、また、食前のドゥアー（祈願）をしたあとに、学校での出来事を子どもたちが話しながら家族そろって食事をする様子などが会話文を多用しながら描かれる。また、学校でアミナが提案したという、地域の病院や警察にキャンディやクッキーをのせた「イード・トレイ」を配り、イードが何であるかを説明するカードを添える計画のこと、姉妹がクルアーンの宿題を済ませる様子や、翌日に母が学校へ車で姉妹を迎えに行きイードの買い物をする約束をすること、イードの買い物、イフタール用のドネル・ケバブとラテを買って帰宅する様子、そして、翌日イードのプレゼントを箱詰めすることを決めてから、ウドゥー（手足の浄め）をして夜の礼拝を済ませ、ベッドに入り、明け方にはスフール（日の出前に、昼間の断食に備えて取る食事）を済ませ礼拝を行う様子など、お正月やクリスマスのような「ハレ」の日を心待ちにする気持ちとともに、日々の生活の中での動作の描写が同作品の根幹をなしている³⁷。

第二の特徴として、ムスリムの模範的な姿とともに、現代的なムスリムの理想像が描かれることである。アミナとアイシャは、常にきちんとお手伝いし、他の人たちを思いやり、ウドゥーと礼拝を欠かさず、イフタールの様子からも断食をしていることが伺える。加えて、困難を抱えた友人たちへの「イード・ボックス」だけでなく、ムスリムではない同じ地域の人たちに、イードを説明するカードを添えて「イード・トレイ」を贈る発案をするなど、積極的なアイデアと行動力をもつ。また、二人の両親も、寝る前

³⁷ 日常生活の様子は動作を微細に描写する手法は、本稿冒頭で触れた『シンデレラ：イスラーム民話』でも同様に見られる。

にクルアーンを読誦するお母さんのほか、お父さんは、預言者ヨブの物語を子どもたちが寝るまえに読み聞かせ、仕事が早く終わった日には、お父さんが子どもたちを学校へ迎えに行き、豪華なイフタールを作る。そして、仕事から帰宅したお母さんを待って、家族で食卓を囲むのである。

第三の特徴として、アラビア語の宗教的な慣用表現が多用されていることが挙げられる。アラビア語の言い回しは、“Assalam alaikum（あなたに平安あれ=こんにちは）”、“mash Allah/Mashallah（それは良かった！[「神が望まれたこと」の意]）”にはじまり、“Jazak Allahu Khairan（神があなたを善きことで報いてくださいますように）”―“Barak Allah fi kum!（神の恵みがあなたにありますように”、その他食前のドゥーアなども、物語のなかで、英訳を並記することなく、そのまま転写されている。多く絵本の巻末で提示される、アラビア語の用語の英訳も本書では付されていない。さらに、Eid-ul-Fitr（断食明けのイード）、Salat-ul-Maghrib（日没の礼拝）などのほか、子どもたちの両親への呼びかけで、Abba（パパ）、Ammi（ママ）などもアラビア語の発音が転写されている。ムスリム児童向けの物語と非ムスリムの子どもたちにも共有できる物語とを完全に分けることはできないが、インドのムスリム出版社である Goodword Books が制作した上記3作品は、とくに、次に述べる(2)(とくに ii)とは異なり、アラビア語のイスラームの用語を日常的に耳にするムスリムの子どもたちを主たる対象として書かれた作品であることが窺える³⁸。

同作品には、ムスリムの両親と子どもたち、および、子どもたちが通うイスラーム女子校しか描かれず、非ムスリムは登場しない。しかし、イードを説明するカードを添えた「イード・トレイ」を地区の人たちに贈るといったアイデアからは、イードにはなじみのない非ムスリムの人々が身近に暮らし交流していることが示唆される。そして、「イード・トレイ」や「イード・ボックス」など、人を思いやり、人に何かを贈ることを喜ぶ気持ち、そして、イードを心待ちにする気持ちを物語の主要なテーマとしながら、生活環境を反映した生活の細部を丹念に描き出すことを重視していると考えられる。また、家庭内でお父さんとお母さんが必ずしも固定的な役割にとらわれずに助け合う姿が描き出される様子からは、ムスリム・マイノリティ研究においてとくに女性の就労や結

³⁸ 同社で刊行されている図書は、「クルアーン物語」の絵本シリーズをはじめとし、欧米やたとえばアラブ首長国連邦などのムスリム国際都市などにも流通しており、必ずしもインド国内のムスリム読者のみを対象とはしていない。[前田 2018]

婚に関して多く指摘される、移民第1世代とは異なる第2世代・第3世代の姿が重なり合う³⁹。

2. 「創作物語」(昔話的な物語)

ファウズィアの創作物語は、いずれも昔話的な作品である。これらの作品でも、「イードのおくりもの」Eid's gifts が主要なテーマになっており、以下の二つの形が見られる。

1) 「おくりもの」をすることを嫌う(あるいは、人との交流を嫌う)強欲な人物が、「与える」ことを学び、幸せを得る

たとえば、『イード、おめでとう——アミール・サアブ!』*Eid Kareem: Ameer Saab!* (2004年)では、お金持ちだがケチで、誰にもおくりものも喜捨もしたがらないアミール・サアブが主人公である。彼は、夢で亡き父に叱られたことをきっかけに貧者に喜捨をするようになり、心優しく敬虔な使用人とも打ち解けて、ともにイードを祝う。

このほか、『イードがきらいな困ったジン』*The Troublesome Eid Jinn* (2004年)や『ジルバップ名人のイードのおくりもの』*The Jilbab Maker's Eid Gift* (2007)、『イード、おめでとう、ミータ・サーヒブ!』*Eid Mubarak, Meetah Sahib!* (2011年)といった作品でも共通して見られる物語の特徴がある。それは、心根の正しい人はイードの喜捨をする、また、心根の正しい人はクルアーンを誦み礼拝をする、というものである。強欲な人物たちは喜捨をせず、礼拝もしないが、改心すると喜捨をして、人と交流するようになり、礼拝をしクルアーンを誦むようになる。

『イード、おめでとう：アミール・サアブ!』で、アミール・サアブは夢を見た後、永らくしたことのなかったウドゥーをして礼拝をし、貧者に初めての施しをする。また、『イードをきらう、困ったジン』では、旅人が読み聞かせたクルアーン章句に、ジンが感動して改心し、ムスリムになる。

³⁹ たとえば、イギリスのアジア系移民第2世代を中心とした若者ムスリムのアイデンティティと社会適応を研究した[安達 2015]は、とくに女性の就労を否定的に捉えたり、若者にお見合い結婚を促したりするコミュニティや親世代に対し、新世代が、それらの価値観は「文化」や「伝統」に基づくものであり、「宗教(イスラーム)」が彼ら・彼女らに示すこととは異なるのだとアピールすることにより、自立的な社会生活や自己選択を図ろうとする傾向が見られることを指摘している。また、[Jacobson 2006]も、とくに、女性の行動や社会生活に関する、イギリスのパキスタン系移民ムスリムの世代間ギャップを論じている。

以上の物語では、人にモノや目に見えない何かを「与えること」が物語の中心に据えられ、イスラームの規範と関連づけられて物語が展開する。これらはクルアーンを誦むことや礼拝や喜捨を勧める宗教的な教えというより、単純化された価値観に沿って語られる昔話的な物語であり、クリスマスの物語とも重なり合う⁴⁰。また、ファウズィアの作品では、悪人は必ず改心しており、登場人物の外見の美醜に関わる描写は回避されている⁴¹。なお、上記4作品はいずれも、インド、イギリス、マレーシアのムスリム出版社によって刊行された。

2) 意図していた「おくりもの」とは異なるものを、人に与えたり、与えられたりする。

『ハリムとカリムのイードのおくりもの』 *Haleem & Kaleem's Eid Gifts* (2008年)⁴²や『イスマトのイード』 *Ismat's Eid* (2007年)、『アディル・アリーのくつ』 *Adil Ali's Shoes* (2018年)では、予期しない形、あるいは、当初の意図とは異なる「おくりもの」がテーマとなる。

『イスマトのイード』では、靴屋のイスマトは、家族（妻、母、娘）にイードの贈り物を贈り、ついでに自分のズボンの裾上げを頼むが、イードの準備で忙しいからと断られ、自分で裾上げする。しかし家族は、日頃のイスマトへの感謝の気持ちから、それぞれがこっそりと「指四本分」、ズボンの丈をつめる。イード当日、イスマトは、「つんつてん」になったズボンを履いて絶叫するが、家族は互いに思いあっていたことを改めて知り、暖かな笑いに包まれる。トルコの昔話をベースに、インドを舞台にして描かれた物語である。

『アディル・アリーのくつ』では、市場で絨毯屋を営む主人公アディル・アリーは親切で仲間に愛されているが、あまりに古びた靴を履いていて呆れられ、イードの贈り物として、新しい靴を贈られる。仲間に悪いと思い、古い靴を捨てようとするが、川に投げても、崖から投げても、戻ってきてしまう。最後に木の上に隠したところ、風で落ちて

⁴⁰ ファウズィアの創作の一部については、既存のクリスマスの物語をイードの物語に作り替えたことへの批判的批評もある。これについては、稿を改めて論じることとする。

⁴¹ 本稿脚注5参照。

⁴² 物語のあらすじは、以下のようである。怠け者の兄弟が村を追い出される。何かを手土産にして、イードには村に帰ろうと試行錯誤する。豆をまいて収穫しようとしたり、鶏の卵を取ろうとしたり、バナナを収穫したりするが、ことごとく失敗する。失意のうちに村へ帰ると、イマームから「手土産など何もならない。村の井戸が枯れ、村人たちが悲しんでいる」と聞き、旅の途中で見つけた泉を村人たちに教えて、感謝される。兄弟は怠け者ではなくなる。

きた靴にロバが驚いて市場は大変な騒ぎになる。仲間たちは、「この靴はやっぱりアディル・アリーが履くべきだ」と彼に届け、ありのままの彼を受け入れる。なお、この絵本には、ムスリムの主人公の仲間として、非ムスリム（おそらくは、ヒンドゥー教徒の人物たち。名前や衣服から推測される）も多く登場し、イラストレーションでも、多様な宗教やバックグラウンドをもつ人々が共に暮らす様子が生き生きと描き出されている。

以上の作品はいずれも、贈り物をめぐる予想外の展開が、コミカルな結末と暖かい心の交流を生み出している。心根の正しい人と強欲な人物との対比や「改心」は、物語の軸になっておらず、模範的な宗教実践も、ごく限られた形でしか現れない。物語は、家族や仲間を思いやる気持ちと、イードにちなんだ贈り物との関わりが大きな笑いを生み出す形で描かれており、このことから物語が非ムスリム読者にも共有されうる可能性を広げている⁴³。

『イスマトのイード』は、『イードのおくりもの』⁴⁴のタイトルで日本でも刊行された。在日ムスリム児童のためのイードの工作コンテストの賞品となる一方で⁴⁵、第62回西日本読書感想画コンクール（小学校低学年/1-2年の部、2018年）ほかの指定図書となるなど⁴⁶、ムスリム読者のみならず、非ムスリムの読者にも共有され受容されうる実践事例を示したと言える。

非ムスリム地域における非ムスリム・マジョリティのイスラームに対する認識は、それぞれの地域や国、個人によって異なるため、ここで述べる非ムスリム読者との共有の可能性も普遍的な基準として提示されるものではなく、日本で非ムスリム・マジョリティとして生まれ育った筆者の主観性に依る部分も少なくない。しかし、予測を裏切る展開や結末の意外性によって驚きと笑いと暖かさを生み出すという構成、すなわち、物語の力が、宗教や文化の境界を越えて楽しむことのできる可能性をもつことは特筆すべきである。

⁴³ 『イスマトのイード』と『アディル・アリーのかつ』が非ムスリム読者との共有の可能性をもつことは、両者が非ムスリム出版社によって制作されたことと必ずしも無関係ではない。しかし、たとえば、『ヤンのハッジ(メッカ大巡礼)——人生の旅』 *Yann's Hajj Trip: The Journey of a Lifetime* (2010) などは、The Islamic Foundation から刊行された作品でありながら、非ムスリム読者と共有されうる可能性をもつ物語である。

⁴⁴ [ギラニ・ウィリアムズ 2017]

⁴⁵ 本稿脚注6で言及した販売サイト「アン・ヌール」による2017年イードの工作コンテスト。

⁴⁶ <https://www.nishinippon.co.jp/cp/kansoga/book.shtml> (2018年8月31日閲覧)。このほか、大阪府堺市中央区の読書感想文・感想画コンクールの指定図書(3・4年生、平成29年度)。

V. 結び

以上、本稿では、「ムスリム児童文学」の広がり、そして、「ムスリム児童文学」の絵本の文作者として知られるファウズィア・ギラニ・ウィリアムズの「イードの物語」について考察した。彼女は、マイノリティ・ムスリムの存在の表象として「イードの物語」を書き続け、また、ムスリム児童たちが自分の姿を物語に見出すことの意義を、彼らの肯定的アイデンティティに深く関わる問題として捉えてきた。

イギリスで高等教育を受け、アメリカ、カナダでも責任ある地位に就いていたファウズィアが、現在に至るまで7年間 UAE で小学校教員を務めている理由として、「イギリスでもアメリカでも、ヒジャーブ姿のムスリム・マイノリティとして周囲からネガティブな視線を向けられてきた。しかし、UAE では、そうした視線を向けられなくて済む」と語っていたことに、マイノリティのムスリムとして非ムスリム社会で生きることの困難の根深さが感じられる。

ファウズィアは、自身の物語創作に関連して、オーストラリアの作家マイルズ・フランクリン(1879 - 1954)による以下の言葉を引用している⁴⁷。

土地に根差した文学がなかったら、人々は、
自分が暮らす地においてよそ者であり続ける。

“Without an indigenous literature, people can remain alien in their own soil.”⁴⁸

Miles Franklin(1879 - 1954)

ファウズィアは、自身の生徒たち、そして、読者であるムスリム児童らに、彼らが物語の中に自分たちと同じ存在を見い出せるような作品を届けようとしてきた。このこと

⁴⁷ たとえば、<http://fawziagilani.com/mirror-books-window-books> (2018年9月30日閲覧)。

⁴⁸ この言葉は、オーストラリアで最も権威ある文学賞「マイルズ・フランクリン賞」(1957年に創始)に関連して多く引用されるが出典はほとんど示されない。マイルズ・フランクリンはオーストラリア生まれの女性作家であり、彼女の遺志によって、「オーストラリアの暮らしをその局面のいかなるものであれ示して見せているに違いない」小説に与えられるとされる

(https://web.archive.org/web/20150906153522/http://www.milesfranklin.com.au/about_history、2018年9月30日閲覧)。なお、オーストラリア文学は、当初、イギリス文学の亜流、もしくは、イギリスの植民地文学として始まった。

は、彼らが、自分が暮らす地域と社会の一構成員であり、決して「よそ者」ではないと感じられることを、物語の重要な存在意義であるとみなしてきたことによる。

Homeland/「ワタン」に関わる文学は、人が生まれ育ち暮らし続ける場所としての「ワタン」、人が「ワタン」であると信じている場所、遠く離れてしまった「ワタン」、そして、これら「ワタン」への思いを表現したものであると言えるだろう。しかし、本稿で論じたように、自分が生まれ育ち暮らしている場所が、確かに自分が属する場所なのだと、感じられる可能性をもつ物語を、読者に届けようとする創作の営為もまた、「ワタン文学」のひとつのあり方であろう。

ファウズィア・ギラニ・ウィリアムズ作品一覧

Gilani-Williams, Fawzia (なお、*は作者名表記が Gilani, Fawzia)

- 1) 2002. *Eid and Ramadan Songs*. illustrator unknown. New-Dehli: Goodword Books.
- 2) 2004. **A Khimar for Nadia*. illustrated by Rin Budiati Warrilow, London : Ta-Ha.
- 3) 2004. *Aminah and Aisha's Eid Gifts*. illustrated by Neeta Gangopadhyay, New-Dehli: Goodword Books (reprinted in 2010).
- 4) 2004. *Celebrating Eid-ul-Fitr with Ama Fatima*. illustrated by Sujata Bansal. New-Dehli: Goodword Books (reprinted in 2010).
- 5) 2004. *Eid Kareem. Ameer Saab!*. illustrated by Jagdish Joshi. New-Dehli: Goodword Books (reprinted in 2005).
- 6) 2004. *The Emir and the Verse of the Throne*. illustrated by Ramendranath Sarkar. New-Dehli: Goodword Books (reprinted in 2012).
- 7) 2004. **The Troublesome Eid Jinn*. illustrated by M. Ishaq. London : Ta-Ha. 2004.
- 8) 2006. *The Story of Samosah Maker*. illustrated by Suhali. New-Dehli: Islamic Book Service.
- 9) 2006. *Salaam Li and the Dacoits: An Eid Tale (Eid Stories)*. illustrator unknown. New-Dehli: Islamic Book Service.
- 10) 2006. *An Old Man Who Trusts in Allah (Eid Stories)*. illustrator unknown. New-Dehli: Islamic Book Service.
- 11) 2006. *The Beggar Boy (Eid Tales). An Eid Story*. illustrator unknown. New-Dehli: Islamic Book Service.
- 12) 2006. *A Poor Widow's Eid Guest (Eid Stories)*. illustrator unknown. New-Dehli: Islamic Book Service.
- 13) 2006. *Father Ant and the Pious Groom (Islamic Stories)*. illustrator unknown. New-Dehli: Islamic Book Service.
- 14) 2007. *The Lost Ring*. illustrated by Kulthum Burgess. Markfield(Leicestershire) : Islamic Foundation.

- 15) 2007. *Husna and the Eid Party*. illustrated by Kulthum Burgess. Markfield (Leicestershire) : Islamic Foundation.
- 16) 2007. *Ismat's Eid*. Illustrated by Proiti Roy. Chennai(India) :Tulika Publishers.
(上記絵本の別ヴァージョン/2010. *Nabeel's New Pants: An Eid Tale*. NY: Marshall Cavendish Corporation.)
- 17) 2007. **The Jilbab Maker's Eid Gift*. illustrated by Muslimah Williams. Kuala Lumpur: A.S NOORDEEN.
- 18) 2008. **Haleem & Kaleem's Eid Gifts*. illustrated by Muslimah Williams. Kuala Lumpur: A.S NOORDEEN.
- 19) 2008. "Queen Agarbati's Secret." *Skipping Stones* 20(2)(Mar.-Apr.2008) 14.
- 20) 2009. *A Collection of Eid Stories*. adapted by Fawzia Gilani-Williams with original artwork by Shazia Yusufali. city unknown: Miskhat Publishing.
- 21) 2010. **Cinderella: An Islamic Tale*. illustrated by Shireen Adams. Markfield (Leicestershire) : The Islamic Foundation. (4th impression, 2015).
- 22) 2011. **Eid Mubarak, Meetah Sahib!*. illustrated by Muslimah Williams. Kuala Lumpur: A.S NOORDEEN /Dar al-Wahi Publication.
- 23) 2011. **Jihad Bin Taye and the Jar of Gold*, illustrated by Yasmin Warrilow, Kuala Lumpur: A.S NOORDEEN /Dar al-Wahi Publication.
- 24) 2012. **Snow White: An Islamic Tale*. illustrated by Shireen Adams. Markfield (Leicestershire) : The Islamic Foundation (3rd impression, 2016).
- 25) 2012. *Baba Salam and The Bag of Gold*. illustrator unknown. New-Dehli: Islamic Book Service.
- 26) 2014. *Eid Songs (Goodword)*. New-Dehli: Goodword Books.
- 27) 2016. *Munna and the Maharaja*. illustrated by Deepa Balsavar, Chennai(India) :Tulika Publishers.
- 28) 2017. *Yaffa and Fatima: Shalom, Salaam*. illustrated by Chiara Fedele. Minneapolis(MN): Kar-Ben Publishing.
- 29) 2018. **Yann's Hajj Trip: The Journey of a Lifetime*. illustrated by Sophie Burrows. Markfield (Leicestershire): The Islamic Foundation.
- 30) 2018. *Adil Ali's Shoes*. illustrated by Niloufer Wadia. Chennai(India) :Tulika Publishers.
- 31) 2018 (刊行予定) **Sleeping Beauty: An Islamic Tale*. illustrated by Shireen Adams. Markfield (Leicestershire): The Islamic Foundation.

主要参考文献

- Gilani-Williams, F. 2007. "Say the Word again? Eid/ Up for Discussion." *School Library Journal (Online)* 2007/12/1 (<http://www.Slj.com/2007/12/opinion/say-the-Word-again-Eid-Up-for-discussion/#>、2017年11月15日閲覧).
- Gilani-Williams, F. & Stephen Bigger. 2010/2011. "Muslim Pupils, Children's Fiction and Personal Understanding." *Almas (Shah Abdul Latif University Khairpur, Pakistan)* 12.

- (http://eprints.worc.ac.uk/1054/1/Gilani-Williams%2C_Bigger_Stories_and_personal_understanding_ALMAS_submitted.pdf、2017年11月15日閲覧)。
- 2011. “Q&A with author Fawzia Gilani-Williams.”, *Ummah Reads: Reading. Literacy. Exploring the world of Muslim children's and young adult's Books.* (<https://muslimkidsbooks.wordpress.com/2011/03/29/q-a-with-author-fawzia-gilani-williams/>、2018年6月1日閲覧)
- 2016. “The Emergence of Western Islamic Children’s Literature.” *Mousation* 34(3). University of South Africa. 113-126.
- Jacobson, J. 2006. *Islam in Transition: Religion and Identity among British Pakistani Youth*, Routledge.
- Janson, T. 2017. " 8. Visual Staging of Virture in Islamic Children's Literature: Discipline and Pleasure." in *More Words about Pictures: Current Research on Picturebooks and Visual/Verbal Texts for Young People*. ed. P. Nodelman, N. Hamer and M.Reimer. New York: Routledge. 127-154.
- Janson, T. 2012. “Imaging Islamic Identity: Negotiated Norms of Representation in British-Muslim Picture Books.” *Comparative Studies of South Asia, Africa and the Middle East* 32(2) 323-338.
- Marranci, G. 2008. *The Anthropology of Islam*. New York: Berg.
- Oyabu, Kana(大藪加奈). “The Treatment of Muslim and Other Characters in Muslim Children's Literature in English.” 『言語文化論叢』(金沢大学外国語教育研究センター) (14) 121-143.
- Panjwani, Antum Amin 2012. “Representations of Muslim Cultures and Societies in Children's Literature as a Curriculum Resource for Ontario Classrooms: Promises and Prospects.” Ph.D. Thesis, University of Toronto (<https://tspace.library.utoronto.ca/handle/1807/79416>, 2017年11月15日閲覧)。
- Sue Books(State University of New York at New Paltz) (ed.) 2010. *Invisible Children in the Society and Its Schools*. 3rd ed. New York: Routledge.
- 安達 智史 2015. 「多文化社会における女性若者ムスリムのアイデンティティと社会統合——イスラーム、文化、イギリス」 『社会学研究』 96 号 139-164.
- 伊藤敬佑 2016. 「『離脱』できない現実：郊外のイスラム系移民を描いたフランス児童文学の検討」 『日本児童文学』 62(4) (2016年7月号) 93-101.
- 川島緑 2010. 「ムスリム・マイノリティ問題」 小杉泰・林佳世子・東長靖編『イスラーム世界研究マニュアル』名古屋大学出版会 388-392.
- ギラニ・ウィリアムズ, ファウズィア文. ロイ, プロイティ絵 2017.『イードのおくりもの』前田君江訳. 光村教育図書 2017. (原書は「ファウズィア・ギラニ・ウィリアムズ作品一覧」の16)
- 丸山英樹 2011. 「トランスナショナルなムスリム移民の教育研究に関する課題」 『国立教育政策研究所紀要』 (140) 265-279.
- 前田君江 2018. 「イスラームにおける「描くこと」のタブーと「コーラン物語」絵本—インドの出版社 Goodword Books の *Goodnight Stories from the Quran* (2004)を中心に」 『絵本学』

(20) 33-42.

- 2017.「グルジア（ジョージア）絵本の現在」『絵本学』（19）33-41.
- 2017/05/10.「遠い世界への窓(1):『あたし、メラハファがほしいな』」『絵本フォーラム』（112）2.（*ムスリム児童書・絵本、中東に関わる絵本の批評紹介コラム）
- 2017/7/10.「遠い世界への窓(2):『ラマダンのお月さま』」『絵本フォーラム』（113）2.
- 2017/9/10.「遠い世界への窓(3):『ぺろぺろキャンディー』」『絵本フォーラム』（114）2.
- 2017/11/10.「遠い世界への窓(4):『アフガニスタンの少女 マジャミン』」『絵本フォーラム』（115）2.
- 2018/1/10.「遠い世界への窓(5):『フルーツちゃん!』」『絵本フォーラム』（116）2.
- 2018/3/10.「遠い世界への窓(6):『イードのおくりもの』」『絵本フォーラム』（117）2.
- 2018/5/10.「遠い世界への窓(7):『わたしも水着を着てみたい』」『絵本フォーラム』（118）2.